

事例 No.	健康危機の概要 ① 国名 ②健康危機内容、 ③ 発生時期 ④概要	地域看護職の活動・役割	結論
9	①米国②災害(ハリケーン)該当なし、④Tampa Bay訪問看護機関における災害対策の紹介	①スタッフと患者の教育:患者の医学的状況に応じて患者と介護者が計画を立てられるよう指導。あらかじめ、患者を病院に入院させるべきか他の専門機関に入所させるべきかを医師と話し合っておく。緊急時の移動手段を考慮しておく。ラジオ等で天気予報を聞くことや避難所から戻った場合に連絡をくれるよう指導しておく。ハリケーン対策のための初訪問時に立案。避難マネージャーによる患者の災害対応計画の作成:アセスメントのための初訪問時に立案。避難レベルと避難先の明確化。重症度・ケアの優先度を決定。③災害チーム:週1度コンピュータにより打ち出される現行患者の避難レベルのリストに基づき、対象者に連絡を取り注意を喚起し当初の計画に従うよう確認。災害チームの出勤不可能時は危機管理サービスに、サービス中断で命の脅かされる患者・避難の必要はないが要確認の患者・避難できなかつた患者について連絡を取る。④回復時:訪問看護師は患者に対する機関の活動とサービスの効果的で安全な復旧を確実にするための復旧計画を持つ。回復対策の目的はできるだけ早く安全で効果的な方法で患者・雇用のニーズを考慮して機関の昨日を開始すること。機関スタッフは最初に自分自身の家と近隣の被害を調べるべき。機関は災害による喪失にさらされているスタッフの支援準備が必要。	ホームケア機関は、患者及びスタッフと地域が災害発生に対して十分に準備しておくことに、責任を負う。嵐の前から計画を立てておくことが重要。災害発生時とその後において、ホームケア機関は、サービスを提供している対象、家に閉じ込められていて援助が必要な対象を特定するために地域危機管理サービスを助ける重要な役割を担う。
10	①カナダ ②災害(ハリケーン)③1987年④7月31日午後、エドモントン東部に竜巻が発生し、200～1000mの竜巻が街の南部に午後3時に到達。一時間後には40km離れた街北西端に達していた。27名の犠牲者、200名以上の負傷者を出し、50名が入院した。推定1～2.5億ドルの被害。雲と洪水が付随。この災害に対してエドモントン健康評議会の直後・長期的フォローアップ活動報告。	①災害時:看護師と視察官(or警部)は状況を確認し、2つのホテルをホームレスの人々に提供してもらった。②フォローアップ(12ヶ月):竜巻による情緒的影響を受けた者のサポート調査と回復状況の記録-被害地域の世帯に対する家庭訪問-家屋を失った生存者の照会(他の機関・組織との) ナースの世帯アセスメント:支援の提供-カウンセリング-教育-コミュニティや他の資源の情報提供;他の団体の必要性の照会 アウトリーチ長期計画としてより密なフォローの指示がない限り全てのサブバイバーに災害後3ヶ月・6ヶ月・1年に連絡を取る。3ヶ月はナースがサブバイバーにとって困難な時期をアセスメントし、支援できるように決定。次のフォロー時期は家族の前進の確認と、ストレス反応の遅れへの反応のガイダンスを再度提供する。この時期に決定。災害事例の個別プランを発展させる方法や、天候・夏の嵐に対する怖れの反応を可能にするように。	住民の反応:概して良くコーピングしていたが、彼らの反応や状況について話すことができること、自分のストレスとどう折り合いをつけるかについて情報を得ること、ストレスは普通であると安心すること、必要時にこに支援を求めればいいかを知っておくことが必要。子どもたちの多くが行動の要容を示しており、親は子どもたちに対応するためのアドバイスと増援を求めていた。 組織の活動:エドモントン健康評議会の直後・長期的フォローアップサービスは、公衆衛生関連団体が個々やコミュニティへの災害フォローとして、支援提供にどれだけ主要な役割を担えるかを示していた。エドモントンでの経験は、団体と行政機関との協働により竜巻被害へのシグナルサービスセンターを提供することの利益を示していた。

事例 No.	健康危機の概要 ①国名②健康危機内容、 ③発生時期④概要	地域看護職の活動・役割	結論
11	①米国②災害(ハリケーン)③1993④フロリダある病院ベースの在宅ケア団体+ホスピスで3つの郡にサービスを提供。この団体の災害ノハリケーン計画の紹介	患者の分類・プランニングには患者のリスクレベルが明らかになり、個々の災害計画の作成も含まれる。スタッフは患者の災害プランの必要性を患者の健康状態・住居形態・地理的条件を基にアセスメントする。患者はリスクレベルにコード化され、最新の全患者のカードファイルに記録され、各レベルは色もしくはE(要避難)の文字で記される。リスクレベルは患者のヘルスケア・避難ニーズの決定・災害後の在宅ケア訪問の優先順位決定に用いられる。ハリケーン準備：シーズン1か月前に団体災害計画のレビューを行うことが不可欠。郡の災害準備オフィスと3郡すべての赤十字と連絡を取り、シェルター情報や既存のプロトコルに変化があれば更新。最新情報を得るため新聞をレビュー。ハリケーンに関するパンフレットの人手とスタッフ・患者への提供。スタッフは必要物資の調達と個別ハリケーン計画の発展を奨励される。初歩的準備としてスタッフ自身の家の準備と団体災害計画の支援。	提言：ハリケーン・アンドリュウの経験から、災害計画において以下の示唆を提供する。 ・スタッフと患者各々が災害準備における責任性を理解できるように安全教育を構成する。 ・年間を通じてのハリケーン計画作成への患者の参加と、スタッフへ患者が災害計画ニーズの変化をスタッフに告げることが奨励される。 ・最低年一回はスタッフと災害計画を見直し、更新する。計画のコピーを病院の安全委員会に提出する。 ・電話の不通時に代わりの有効な通信手段や、オフィスビルのダメージによるオフィスの立ち入り不可などを備うための団体の通信システムをレビューする。 ・コミュニティの安全を促進するようコーディネートされた災害計画について最新の情報を得るため連絡を取る 災害準備のポイントは、すべての災害に使用・対応するために計画の調整が必要だということ。在宅ケア団体は災害からの回復支援において多くの責任を負っている中で、柔軟でなければならぬ。
12	①英国②汚染物質等(タンカー石油流出事故)③1993年④シエッタラント沖で起こったタンカー災害における地区看護師で助産師のLis Cookの行った地域住民の健康リスク調査活動	活動の様子：ハリケーン・アンドリュウが南フロリダを襲った後、団体は災害計画の特定段階を実施した。病院の人事ディレクターは在宅ケア団体のリスク・マネージャーにハリケーンの可能性と病院の準備状況を情報提供。病院のコンピューターを国の気象サービスに接続。ハリケーン警告発令でオフィス閉鎖後はリスク・マネージャーの自宅が病院と団体従業員の連絡のベースとなる。 サービスマン再開後ハリケーン評価会議を実施することで、スタッフがハリケーン計画の効果を見る機会を与えられる。ハリケーン後の教育プログラムが災害計画の更新のためにすべての団体スタッフに提供される。	予防策についての情報提供の必要性・正しい情報を適切に提供する 方策についての提案。調査結果は、災害時の救援策として直接的な経済援助とともに健康調査の必要性を浮き彫りにした。まだ自覚症状のある対象や不安の強い対象への今後の対応の態度も示している。

事例 No.	健康危機の概要 ① 国名 ②健康危機内容、 ③ 発生時期 ④概要	地域看護職の活動・役割	結論
13	①米国 ②暴動 ③1992年 ④ロンド ン キング裁判により発生した暴 動時の対応状況とその経験を踏ま えて整備した社会不安発生時の対 応策の報告	ロサンゼルス訪問看護協会の対応：従事者の管理者に対して、従事者のスタッフを自らの安 全を守るためにその地域からすぐ引き上げるよう指示。6地域の事務所の管理者に対して、期 間が契約している患者をトリアージし、重症患者を判断し早急にその地域から救出するよう指 示。事業部の首席副会長と人材部門の副会長が本部会議を開きスタッフを統括するための社 会不安対応方針を立案。可能な限りスタッフの寝間を最小限にするよう尽力。朝8時に出勤す るスタッフが利用できるような6つの事務所の管理事務所にファックスを送信。このことが訪問看 護協会のリーダーシップが統制されておりより状態にあることをスタッフに伝えスタッフのストレ スを軽減し安心感を与える効果を及ぼした。	災害対策として何を追加すべきが検討し以下のことを確認した。・活動 のための代替拠点。ネットワークづくりと融通性の高い診療記録が拠 点におけるケア提供に有効。マホジメントが目に見え、落ち着いてい ること。統制されていること。経営幹部とスタッフの連絡先と、電話以外 のネットワーク手段の確保。災害準備のための準備と実行におけるス タッフの役割を明確にしておくこと
14	①米国 ②テロ ③2001年 ④世界貿 易センタービルの子ロ事件におい て、危機管理室でCCPRの職務を 担うUSPHS職員(国民の健康維持 増進を目的とした軍サービスの委 託職員)看護職の活動報告	管理スタッフミーティングを実施し今後3日間の計画を立案。管理事務所および危険地域の事 務所を閉鎖。メーンコンピュータのシャットダウンの決断。閉鎖した事務所機能を他の事務所 で調整対応。以下のリスク領域に基づいてトリアージ1介護の必要性及び介護者がいるかどうか かに食べ物・水・食事の準備が可能か3ライフラインが利用可能か4重要な医療が利用可能か 偶然把握したサービスを利用していない患者や定期的に訪問していない患者また特徴的な問 題を調べ記入する様式を作成。3日間経過後より影響を受けた地域に戻り活動再開。看護士 が2人1組になり患者を訪問。最も危険であった地域は事業所スタッフが行く。	緊急事態安全計画 この計画には雇用者の安全・患者のケア・指揮命 令系統・情報伝達・避難・緊急時必要物品・コンピューターと記録の保 護・職員への対応のそれぞれ項目について、方針と対応方法が書 かれている。以下の3点に特別な対応方針あり1社会不安が勃発したと きの大まかな対応策のガイドライン2災害時の患者ニーズの優先度の 判断3職員対応について(職員の安全と、災害事例役割や配置につい て)
15	①米国 ②テロ 2001年 ④9月11日 のテロリストによって殺されたナ ースのリストを完成させるために、新 聞とネットからナース機関を尋ねた 結果11人のナースが犠牲になった ことがわかった。その中の1人であ るKathy Mazzaの話の紹介。	①危機発生時：旅客機衝突後すぐ危機司令室に移動し軍医総監に電話で事件報告し、CCRF の活動許可を得る。スタッフは車で移動。全米鉄道旅客輸送公社の協力を得て他の局員を動 員。調整者として640人以上の職員を災害派遣任務に送り出す。3か所の災害医療ケアの指 示監督。法蘭科医と人員登録データを準備。 ②炭疽菌汚染対応CCRFチームの担当者：集団科学予防を行う最初の地点を設置。議会の 被雇用者7000人以上に与薬と患者教育を提供。	彼女の直面している問題：CCRFのためのUSPHSの職員への資格を 与えることへの要求と看護職不足
15	①米国 ②テロ 2001年 ④9月11日 のテロリストによって殺されたナ ースのリストを完成させるために、新 聞とネットからナース機関を尋ねた 結果11人のナースが犠牲になった ことがわかった。その中の1人であ るKathy Mazzaの話の紹介。	彼女の職歴：以前はニューヨークにある病院の心臓外科のナースであったが、1987年彼女 はPAPD(the Port Authority of New York and New Jersey Police Department)に加入するた めに看護を去った。そこは、彼女が自分の技術を用い、専門性を発揮するとともに、安定した 退職金を提供してくれど感じられたからであった。彼女の計画の一部は、再びナースに戻ることで あった。 PAPDではかつて、Mazzaは、緊急時の最初の対応者であり、それに続くすべての港官庁に 心臓細動除去器を運ぶことを率先する者として、警察官を指導した。彼女は、その後PAPD初 の女性教官となった。 9月11日の活動：彼女は他の警察官や消防士と共に、レスキューに参加するために世界貿 易センターにかけつけた。彼女はノースタワーの階段吹き抜け付近で、仲間の警官を支援する ときを待っていた。彼女は、そのときにまだトラップされていた[防鼻装置で止められていた] 人々のためにロビーの窓を護身用のピストルで打ち、逃げ道を明らかにした。そのことはのち にロビーにあったもので明らかにになった。	彼女の職歴：以前はニューヨークにある病院の心臓外科のナースであったが、1987年彼女 はPAPD(the Port Authority of New York and New Jersey Police Department)に加入するた めに看護を去った。そこは、彼女が自分の技術を用い、専門性を発揮するとともに、安定した 退職金を提供してくれど感じられたからであった。彼女の計画の一部は、再びナースに戻ることで あった。 PAPDではかつて、Mazzaは、緊急時の最初の対応者であり、それに続くすべての港官庁に 心臓細動除去器を運ぶことを率先する者として、警察官を指導した。彼女は、その後PAPD初 の女性教官となった。 9月11日の活動：彼女は他の警察官や消防士と共に、レスキューに参加するために世界貿 易センターにかけつけた。彼女はノースタワーの階段吹き抜け付近で、仲間の警官を支援する ときを待っていた。彼女は、そのときにまだトラップされていた[防鼻装置で止められていた] 人々のためにロビーの窓を護身用のピストルで打ち、逃げ道を明らかにした。そのことはのち にロビーにあったもので明らかにになった。

国立保健医療科学院蔵書



10023338